

# ＝ 普 及 情 報 ＝

No. 25

令和6年12月19日

西部農林水産振興センター益田農業部

標 題	津和野町での「つきあかり」多収効果を確認！ ～中山間地域での今後の拡大に向けて～
-----	---

(ダイジェスト)

管内では、R5年度から平場地域を中心に多収穫米品種「つきあかり」の栽培が本格的に始まりました。

今年度は、津和野町に展示ほを設置し、中山間地域での取り組み拡大に向けた活動を行いました。展示ほでは、生育目安収量600kg/10aを上回る634kg/10aを確保することができ、今後の普及・拡大に手ごたえを得ました。

当農業部では、昨今の異常気象による収量・品質低下への対策として、多収穫米品種「つきあかり」の導入を関係団体と連携して進めているところです。

「つきあかり」は乳白粒が発生しやすいことから出荷等級は2等を多く占めますが、収量性・食味については「コシヒカリ」より高水準であることが特徴の品種です。また、高温登熟性もやや強く、近年の高温傾向によって特に品質低下が課題となっている「コシヒカリ」からの品種転換に期待されています。

管内では、R5年度から本格的に栽培が開始され、今年度は20haが栽培されていますが、平場地域が7割を占めており、中山間地域ではまだまだ栽培が広がっていません。そこで、「コシヒカリ」中心の経営体が多い津和野町に展示ほを設置し、面積拡大を図るために活動を行いました。

「つきあかり」の栽培者向けに現地研修会を開催したところ、作付けをしていない担い手の参加がありました。研修会ではほ場を前に意見交換が行われ、穂長や籾の大きさを確認してもらったことで、「つきあかり」の関心を高めることができました。

展示ほでの生育は全体をとおして順調に推移し、ほ場収量は634kg/10aと生育目安である収量600kg/10aを大きく上回りました。出荷等級も1等を獲得したことで収量・品質ともに好成績を収めることができました。展示ほを設置した担い手からは「コシヒカリよりも茎が太い」と好感触を得ることができ、次年度は面積も拡大する予定と聞いています。

今後は、好成績が得られた要因を分析し、さらに、次年度以降の普及・拡大に繋げていきます。



写真1 成熟期の様子



写真2 研修会の様子